

えんがわ

第68号

2012年11月発行

発行元
衣笠病院グループ
衣笠須賀市小矢部
2-23-1
Tel 046-852-1182

声の贈り物

最近電話しましたか？大切なひとの声は覚えていますか？私は最近メールに頼りほとんど電話をかけなくなりました。先日久々に大切なひとと電話で話をし、素敵な時間を過ごしました。改めて電話っていいなあと思いました。私にとって大切なひと。それは祖母です。祖母は私の一番の理解者。社会人になってからは連絡をとることも少なくなりました。電話で話すきっかけは「敬老の日」でした。毎年贈り物を送っていたのですが、今年はすっかり忘れていました。今年の贈り物は無くなったことをメールし、謝っておこう

と思いましたが、どうしてもスツキリしません。それが何かよくわからないまま電話をすることにしました。私は敬老の日だからと、初めは義務的に電話したはずでしたが、電話を終えた頃にはいつしか私が励まされており私の一番の理解者「私の大切なひと」と再確認し、声が聞けてよかつた、と、日頃の疲れなど、どこかへ飛んでいってしまいましたが、「便りのないことは元気な証拠」とはいいますが、挨拶くらいは些細な時間でも声を届けることで相手が幸福を味わえるのであれば電話が一番！声の贈り物は最高のプレゼントなのかもしれません。衣笠病院長瀬ケアセンター デイサービス 鹿野 智子

えんがわ在宅 ひとくちメモ

いい塩梅

日本語っておもしろい。料理のなかで「塩」は重要な役割を担っています。ほんの少しのさじ加減で料理をだめにしてしまったり、これ以上のものはないという料理に。レシピとまったく同じに作っても何かが違う。料理を作るその人の体の具合、季節によってかわる塩加減。福祉用具も同じ。形や用途は決まっている。



決められた通りに活用する。でも、何かしっくりこない。その時にどうするか。

福祉用具を利用（使用）

する人の心身の状態、おかれた環境等によって、まるで自分の手足のごとく機能し生活に潤いを。どんなに高性能で最新の機械（用具）であっても、ほんの些細なことでも無用の長物になり家の片隅に。

福祉用具を生活のなかで活かしていくために自分を知らることが大切です。

衣笠病院長瀬ケアセンター
居宅介護支援事業所管理者
吉田 勝利

秋も深まり、早いところでは朝霜が降りる時期になりました。穀物の収穫を感じる時期が各地で行なわれる時期でもありますね。感謝してたくさんおいしいものをいただきたいと思えます！